

120822 南河内の山（里山）に咲く花

大和葛城山や天見地区（河内長野）で撮影した、この時期に咲く「花」を紹介します。

“盛夏の花”から“秋の花”へと移行しつつある気配を感じました…

◆写真①： カワラナデシコ

- ◇秋の七草の一つである「ナデシコ」は本種のことです。
- ◇日当たりの良い草原や河原を好み、直径4~5cmの花を茎の頂端に付けます。
- ◇里山に人手が入らなくなり、植生遷移が進むことによって、本種の好む日当たりの良い開けた環境が少なくなってきました。

◆写真②： ツリガネニンジン

- ◇秋の草原を代表する野草の一つです。
- ◇花の形が「釣り鐘」に似ていて、白くて太い根が「朝鮮人参」に似ていることからの命名です。

◆写真③： オミナエシ

- ◇秋の七草の一つです。
- ◇この種も、里山に人手が入らなくなったことが影響して、その生息環境を減らしています。（除草などの適度な“人為的かく乱”が、本種の生息環境を提供していたのです）
- ◇『手に取れば袖さへにほふをみなへし この白露に散らまく惜しも』 - 万葉集

◆写真④： コオニユリ

- ◇山地の草原に生える高さ1~1.5mの多年草で、花期は7~9月です。
- ◇人里近くに生える「オニユリ」に比べ、ほっそりした感じで茎は淡緑色です。
- ◇花は数個がまばらに咲き、直径8cmほどです。

◆写真⑤： ワレモコウ

- ◇この花の色を議論していたとき、どこからか「私は断じて紅です！」という声が聞こえてきたことから「我も紅（われもこう）」と名付けられた、との説もあります。
- ◇花期は8~10月です。

◆写真⑥： イワタバコ

- ◇湿った岩壁などに着生し、その美しい花の姿から栽培もされてきました。
- ◇花は直径1~1.5cm、花期は6~8月で、葉が「タバコ」の葉に似ています。

◆写真⑦： ハグロソウ

- ◇山地の木陰に自生し、花期は8~10月、花は二唇形の合弁花です。
- ◇葉が暗緑色である、花の斑紋をお歯黒に見立てた、等の説が命名の由来です。

◆写真⑧： ミズヒキソウ

- ◇タデ科の多年草で、里山の林縁などに自生しています。
- ◇花の表面が「赤」、裏面は「白」であり、これが進物用の紙糸「水引」に似ていることからの命名だそうです。

◆写真⑨： キンミズヒキ

- ◇夏になると茎が立ち上がり、8月頃に直径6～10mmの黄色い花を咲かせます。
- ◇名前の由来は、黄色の穂をキン(金)のミズヒキに見立てたところからでしょう。
- ◇ちなみに「写真⑧」のミズヒキソウは「タデ科」、本種は「バラ科」に分類されています。

◆写真⑩： ヤブラン

- ◇藪に生えて、葉の形がランに似ていることからの命名だそうです。
- ◇花期は夏から秋にかけて、紫色の小さな花を穂状に咲かせます。
- ◇園芸品種には、斑入りの葉のものもあり、庭の木陰で栽培されることが多いようです。

◆写真⑪： ヤブミョウガ

- ◇8月頃、茎の先端から花序をまっすぐ上に伸ばし、8mmほどの白い花をたくさん咲かせます。
- ◇葉の形が「ミョウガ」に似ていることから、「ヤブミョウガ」と命名されたようですが、ミョウガは「ショウガ科」、本種は「ツユクサ科」に分類されています。





















